

9月30日(水) <校長から、生徒の皆さんや本校に関心のある方に、折々に伝えたいことを発信します>

1. 「命」を守るために、自転車ヘルメットをかぶろう

今日までの1週間、交通安全週間の取組として、生徒会役員と有志の生徒が校門前で呼びかけてくれていた。その時の様子を見ていて感じたことを少し書いておく。

自転車通学者の多くがヘルメットを「持って」きていた。今年度から本校だけでなく、全都立学校で必須のルールとされたのだから、当然のことではある。但し、「持って」いればよいのか？そうではないはずだ。持っているなら、是非、かぶってほしい。道具は使うことに意味があるのだから。

私が強く感じたのは、ヘルメットをかぶるかぶらないというだけではなく、「その場しのぎの考え方をすることのあさましさ」だ。なぜ、自転車でヘルメットをかぶることがルール化されたのか？それは自転車事故の統計上、頭部を守ることによって生命を救える可能性が高いことがわかったからだ。では、なぜ生命を守らなければならないのか？それは、失ってしまったら取り返すことができないからだ。

チェックされるからその時だけ持ってこよう、などというあさましい考え方ではなく、前向きに、「私の命は大切だから、自転車に乗る時はヘルメットをかぶろう」と考えよう。後悔先に立たず、だ。

2. 生徒総会を前に

明日の都民の日から、いよいよ令和6年度も後半に入る。10月2日には、生徒総会と生徒会執行部役員選挙が予定されている。

つい先日、二つの政党で、代表者を決めるための関係者による選挙があった。これは日本の国の政治を主として運営していくリーダーを決めるものだ。遠くない過去に、ある若者による暴力で当時のリーダーが死亡するという事件があったことも記憶に新しい。日本は民主主義社会であるから、暴力による改変は決してあってはならない。正しく意思を表明し、議論を交わすことによって進んでいくのだ。

さて、大森高校生徒全体が「生徒会」という組織をどのように運営していくのか、君たちはどのようなリーダーを選ぶのか、校長として期待して見守りたい。生徒一人一人が真剣に考えなければならない。安心して安全な学校生活を送り、「人々に愛され、社会に貢献できる人間になる」ために、生徒を代表して執行部を担ってくれる人物を慎重に選んでほしい。

「その場しのぎのあさましさ」に流されるのではなく、生徒を代表して正しく自己主張できることが、リーダーだけでなく生徒全員にとって大切なことなのだ。

学校という小さな社会に所属している間に、こういう小さな練習を繰り返していくことが、君たちを社会人として育て、安全で平和な日本を支えていく。大森高校生として、生徒の皆が、校訓の「敬愛 誠実 努力」を体現する、「自己プロデュース力」と「自己コントロール力」を備えた人間になるために、様々な学びと経験を重ねてほしい。

始業式や終業式での私の話を覚えていますか？全て関連しているのですよ。

